



平成 22 年 4 月 28 日

各 位

上場会社名 ラサ工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 柳萬 雅徳
 (コード：4022, 東証第一部)
 問合せ先責任者 取締役経理部長 小野 茂夫
 (TEL. 03-3278-3892)

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 11 月 6 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 22 年 3 月期において見込まれる、特別損失の計上について合わせてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(金額の単位：百万円)

(1) 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,400	△ 850	△ 2,100	△ 2,100	△26.48
今回発表予想 (B)	22,300	△ 1,350	△ 2,550	△ 5,750	△72.50
増 減 額 (B - A)	△ 2,100	△ 500	△ 450	△ 3,650	
増 減 率 (%)	△ 8.6	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	32,267	△ 544	△ 1,431	△ 6,738	△84.97

(2) 平成 22 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,600	△ 900	△ 2,100	△ 2,100	△26.48
今回発表予想 (B)	19,400	△ 1,400	△ 2,600	△ 5,550	△69.98
増 減 額 (B - A)	△ 2,200	△ 500	△ 500	△ 3,450	
増 減 率 (%)	△ 10.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	28,259	△ 1,132	△ 1,673	△ 6,820	△86.00

(3) 修正の理由

平成 22 年 3 月期の通期業績につきましては、前回公表時 (平成 21 年 11 月 6 日) の予想に比べ、化成
 品事業につきましては、売上高は購入販売品などが大きく落ち込みましたが、損益への影響は軽微であり、
 概ね見込み通りに推移いたしました。

しかしながら、電子材料事業は、シリコンウェハー再生事業において販売数量は増加基調にあるものの所期の目標を下回り、また販売価格も想定以上に下落したことから予想の収益を下回りました。機械事業についても、下水道関連の掘進機の販売に一部翌期へのずれ込みがあったことなどにより所期の予想を下回りました。

また、シリコンウェハー再生設備につきまして減損損失を特別損失に計上する見込みであることから、当社グループの平成22年3月期の通期業績については上記のように修正いたします。

2. 特別損失の計上について

(1) 固定資産減損損失の計上

半導体市況は回復基調を強めておりますが、同業界におけるシリコンウェハー再生事業については回復が遅れており、そのため販売競争は依然激しく、販売価格について一時下げ止まりの兆候が見えたものの、その後も販売価格の下落が続いたことから、現在の事業環境に照らし将来の収益計画を慎重に見積り直した結果、シリコンウェハー再生設備について約30億円の減損損失を計上する見込みとなりました。

3. 業績改善に向けた取り組み及び次期の見通し

(1) 業績改善に向けた取り組み

この度の業績予想の修正の結果、2期連続の大幅な赤字を計上することになったことを真摯に受け止め、さらなる役員報酬の減額を実施するとともに、全社員に対する人件費の追加削減を実施しております。また引き続き営業活動の強化を行い、生産体制の見直し、人員の適正化などあらゆる費用の徹底的な見直しを行い総コストの抑制に取り組めます。

以上の業績改善に向けた対策を実行し業績の回復に努めてまいります。

(2) 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、化成品事業については足元で出荷量の回復基調が続いており、引き続き販売数量の増加が続くものと見込んでおります。電子材料事業はシリコンウェハー再生事業の販売単価は厳しい状況が見込まれるものの、半導体業界の設備投資が動き出していることから販売数量の増加を想定しております。なお、当期においてシリコンウェハー再生設備について減損損失を計上したことにとともに、次期以降は減価償却費が減少する見込みであります。高純度無機素材についてはLED市場の拡大などから順調な増加を想定しております。機械事業につきましては、下水道関連の掘進機が当期からのずれ込み分も売上に寄与することから堅調に推移するものと予想しております。

このような見通しに加え、業績改善に向けた対策の効果を踏まえた結果、次期の損益見通しは以下の通りとなり、黒字が確保できる見通しであります。

(3) 平成23年3月期の通期連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	26,300	1,400	700	650

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上